

2010 年上半期（1-6 月）課税出荷数量ヘッドライン

1. 市場全体の概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル市場は、生活防衛意識の高まりや嗜好の多様化、天候不順などの影響もあり、マイナス（▲4.5%）。
- ◆ ビール市場は、生活防衛意識の高まりの影響もあり、マイナス（▲5.4%）。
- ◆ 発泡酒市場は、新ジャンル市場拡大の影響もあり、マイナス（▲21.3%）。
- ◆ 新ジャンル市場は、依然拡大を継続し、プラス（+9.7%）。構成比は 33.4%。

2. キリン社概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル計は、市場同様にマイナス（▲7.3%）。
- ◆ ビール計は、市場同様にマイナス（▲9.2%）。「一番搾り」は、昨年の大規模なプロモーションの裏返しがあったものの、市場平均並みに留まった。
- ◆ 発泡酒計は、マイナス（▲12.9%）。「淡麗シリーズ」の堅調な推移もあり、市場平均を上回った。シェアが 6 割を超え、発泡酒市場における存在感はさらに高まっている。
- ◆ 新ジャンル計は、プラス（+1.2%）。圧倒的な存在を誇る「のどごし〈生〉」がプラスと好調を継続。

《ビール・発泡酒・新ジャンル》

- 市場全体同様に天候不順などの影響がある中、新ジャンルカテゴリで 3 割以上のシェアを占める「のどごし〈生〉」はさらに拡大した。

《ビール》

- 「一番搾り」は昨年のリニューアルに合わせた大規模なプロモーションの裏返しがあったものの、市場平均並み（▲5.9%）に留まった。
- 「ラガー」は、マイナス（▲10.4%）となったものの、味覚とパッケージをブラッシュアップした効果もあり、缶計のマイナス幅が 1 桁に縮小している。

《発泡酒》

- 「淡麗シリーズ」は、マイナス（▲8.9%）となったものの、市場全体が大幅マイナスとなる中、堅調に推移。当社の発泡酒計が、発泡酒市場に占めるシェアは、上半期としては過去最大となる 64.9% を記録。
- 「淡麗グリーンパベル」は、新テレビ CM の効果もあり、前年並み（▲1.3%）と好調に推移。
- 「麒麟淡麗樽詰生」は、上半期で対前年比プラスを記録。

《新ジャンル》

- 新ジャンルカテゴリで圧倒的な販売を誇る「のどごし〈生〉」が、プラス（+2.9%）と、2005 年の発売以来、上半期では最大となる 2,126 万ケースの販売を記録した。

※ 「一番搾り」「ラガー」「淡麗シリーズ」「淡麗グリーンパベル」「麒麟淡麗樽詰生」「のどごし〈生〉」の対前年比は販売数による

以 上